

二〇二五年一月三日

隠せざる齡うべなふ初鏡
初凧の渚に高く鳶の笛
日の枝に音符並びす寒雀
豊なはるアルプスの嶺々初御空
二歳児も分け隔てなくお年玉

二〇二五年一月二日

孫ひ孫御慶百寿の手を取りて
駅伝の目指すは箱根雪の富士
海峽に天使の梯子大旦
碧落に雲一と刷毛の淑気かな

二〇二五年一月一日

晩年の今が幸せ初鏡
古い母の寢息に安堵大旦
百歳の母励まして屠蘇祝ふ
国内線搭乗口に松飾り
お雑煮を供へ遺影に御慶のぶ
若水に明けの日差しの届きけり

二〇二四年十二月三十一日

刃を拒む巖のごとき八頭
家々に幸の灯洩るる大晦日
いくつもの尾根を重ねて山眠る

うつぎ
千鶴
わたる
むべ
もとこ
あひる
せいじ
うつぎ
よし女
うつぎ
せいじ
せいじ
せいじ
和繁
たか子
澄子
むべ
うつぎ
明日香

二〇二四年二月三〇日

耐えきれず静寂やぶる雪庇かな
さきがけて娘が帰着小晦日

二〇二四年二月二十九日

暫くは鳩浮くまでの水鏡
無音界深々と降る夜半の雪
観音の千手もゆるぶ小春かな
煤逃げのいつもの面子揃ひたり
闘病の夫に見せたき冬銀河

二〇二四年二月二十八日

車椅子孫に押されて歳の市
砂遊びする児抱擁する冬日
佳きことに付箋つけたる古日記
いささかの愚痴も散見日記果つ

毎日句会みのる選・二〇二五年一月五日

ほたる
せいじ
澄子
ほたる
明日香
澄子
やよい
なつき
澄子
康子
うつぎ